

てんじしょうかい
展示紹介

カモシカ

2階の^{かい}とやま空間のたびの展示室の「^{さんち}山地」のコーナーにはカモシカがニホンザルやツキノワグマとともに^{しよか}初夏の森の中で休んでいます。今回は、このカモシカを^{しょうかい}紹介します。

● カモシカの^{せいかつ}生活

カモシカは、日本にしかいないほ乳類で、本州、四国、九州の山地にすんでいます。四国、九州の生息数は多くありません。一時は、毛皮などをとるため減ってしまい、1955年に国の特別天然記念物に指定されました。昔は奥山にしかいませんでしたが、次第に住み場所が広がり、最近ではよくみかけるようになりました。単独で行動し、木の芽や葉、草などを食べています。秋に交尾期し、5～6月に1頭の子どもを産み、子どもは1歳まで母親と過ごします。

^{とやまけん}富山県では山地から^{さんろく}山麓まで広く分布し、最近では、^{しゅうらく}集落付近に出てきて畑の作物を荒らすこともよくあり、時には平野部や海岸近くにも出没することがあります。



● カモシカの足跡やフンを見つけよう

山の林道わきの土の上や河原の砂の上で、2本のひづめがくいこんだ足跡をみつけることがあります。フンは、1個1個はやや長く丸い形ですが、同じ場所でするため、古いフンの上新しいフンが重なり大きなかたまりになります。



● ^{ほね}骨を調べよう

^{とうこつ}頭骨をみると、目の入る穴が顔の両側にあり、上から角が生えています。上あごの先には歯がなく、下あごの先に^{せつし}切歯があり、奥にある^{きゅうし}臼歯は草をすりつぶすのに適した形です。前足や後ろ足は長くなり走るのに適した形です。指は4本で第1番目の骨がなく、第3、4番目の骨が長く、第2、5番目の骨は退化して短くなっています。



(引き出しをあげ、^{とうこつ}頭骨や前足や後ろ足の骨をツキノワグマやニホンザルの骨と比較してみてください。引き出しには他にもカモシカが食べた植物があります。)

(2009年9月南部久男)